

## まちづくり教育によるこどもの意識に関する研究 下田市における「こどもまち遺産ワークショップ」を実施して

A study on children's consciousness by the Town Planning Education  
And implementing the "Kodomo Machiisann workshop" in Shimoda

○杉浦菜々<sup>1</sup>, 山中新太郎<sup>2</sup>

\*Nana Sugiura<sup>1</sup>, Shintaro Yamanaka<sup>2</sup>

### 1 研究背景と目的

近年地方都市は様々なまちづくりの工夫をしているにも関わらず、年々観光地の衰退・人口減少が深刻化しているケースが多い。静岡県下田市もその一つである。そのような都市で、「まちづくり教育」は、次世代のまちづくりにおける人的基盤の形成などの点から重要視されている。<sup>1)</sup>そこで本研究は、より効果的なまちづくり教育の方法を明らかにすることを大きなテーマとして掲げ、その一端として、まちに関する意識調査を行い現状を明らかにすること、まちづくり教育に関するワークショップ(以下WS)を実施し、WSの結果とこどもの意識の関係性を明らかにするという2点を目的とする。

### 2 研究方法

静岡県下田市の下田小学校3年生46名を対象に「こどもまち遺産ワークショップ」と称したWSを行う。WSの内容は、前半に下田市の特徴である伊豆石となまこ壁の建築のレクチャーを行い、後半に班行動でカメラを用い、まちの自慢となるような箇所の撮影をするフィールドワークを行った。WS参加者対象者には、基本情報と下田への意識に関する事前アンケート調査、WS感想等の事後アンケート調査を行い、また、WS参加対象者の保護者には、こどもの基本情報と保護者自身の下田への意識に関するアンケート調査を行う。3つのアンケートとWSでこどもたちが撮影した写真データ、位置データを紐づけし、データ分析を行う。

### 3 本研究の位置付け

こども向けWSに関する既往研究の多くは、小学校高学年以上を対象とされている。<sup>1)</sup>本研究では、総合学習が始まる小学校三年生を対象にWSを行うことで、前知識のないこどものまちに対する意識を調査し、今後のまちづくりや、まちづくり教育の計画に有益なデータを収集することを目的とする。

### 4 ワークショップ

#### 4-1 WS概要

こどもたちに下田のまちの自慢できるものを再発見させ、まちづくりへの興味・関心をもつきっかけをつくる。またこのようなワークショップの実践と結果の分析を今後の「まちづくり教育」へ活かすことを目的とし、表1に示す日程で実施した。

表1 活動日程と取り組み内容

日付	項目	内容
2016年 9月2日	アンケート	児童の基本情報・祭りなどまへの参加状況 まちの好きなおとこ、嫌いなところなど まちへの意識に関する事前アンケート実施。
9月6日	WS	1. <伊豆石・なまこ壁のレクチャー> クラスごとに実際に伊豆石、なまこ壁の 使われている施設を見学。伊豆石・なまこ壁の 特徴や歴史についてレクチャーをうける。 2. <まち遺産探検> 5~6人の班に分かれ、フィールドワークを行う。 各班1つずつインスタントカメラを配布し 「まちを自慢」をテーマに1人3枚まで撮影。 被写体は建物風景に限定。撮影後にマップに 撮影場所・タイトル・理由を記入させ提出。
9月7日	アンケート	WSの感想・まちへの意識に関するの 事後アンケート実施。
10月中旬	アンケート	WS参加児童の保護者対象に、こどもの基本情報、 本人のまちへの意識に関するアンケート実施

#### 4-2 WS当日の様子

対象児童3名が欠席し43名が参加した。レクチャーでは興味深く建物を見物しており、講師からの問いかけにも積極的に答えていた。まち自慢探検では8班に分かれ各班に1名ずつ大人がつき、こどもの撮影やマップ(図1参照)の記入のサポートを行い、こどもが撮影した時間と場所を各班1枚配布したシートに記録してもらった。ほとんどの児童が楽しんで撮影を行っていたが、WS中盤に雨が降ってしまったため、3枚撮影出来ない児童もいた。

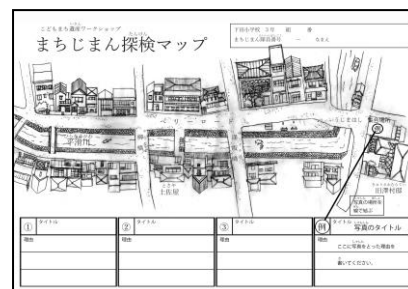


図1 配布したマップ



写真1 レクチャーの様子



写真2 まち遺産探検の様子  
(2016/9/6 WS参加者撮影)

## 5 実施結果

アンケートとワークシートの配布・回収数と回収率は以下の表の通りである。

表 2 各データの回答数と回収率

	事前アンケート	探検MAP	事後アンケート
配布数(枚)	46	46	46
回答数(枚)	44	43	42
回答率(%)	95.7	93.5	91.3

### 5-1 事前アンケート

事前アンケートでは、好きな科目・よく遊ぶところなどの基本質問、まちのイベントへの参加状況の質問、まちが好きかどうか、どのようなところが好きか、同様にどのようなところが嫌いかなどの意識調査を行った。

好きな科目(複数回答可)では体育が36人(81.8%)、図工が33人(75.0%)と多くの児童が回答しており、実際に自分で体験する科目が好まれる傾向にあることがわかる。下田で一番大きい祭りである黒船祭は行ったことがあるかという質問には42人(95%)が行ったことがあると答え、児童やその保護者がまちへの関心が高いことがわかった。下田が好きかという質問では、とても好きが16人(36.4%)、好きが12人(27.3%)、普通が16人(36%)、嫌い・とても嫌いは0人であった。下田の好きなこと(複数回答可)では海が28人(63%)と高く、下田の嫌いなことではなしが26人(59.1%)で、次に店が少ないことが10人(22.7%)で高い結果となった。

### 5-2 WS当日の探検マップ・写真

子供たちが撮影した写真は、以下の分類分けをした。

表 3 写真の分類

分類	①集中型	②組み合わせ型	③風景型
	1つのものが5割以上を占めている	2つのものが7割以上を占めている	①②に当てはまらないもの
例			

対象者43名の合計撮影枚数は99枚(平均2.3枚)であった。写真の分類の割合を図2に表す。68枚(68.7%)が注目型、13枚(13.1%)が組み合わせ型、18枚(18.2%)が風景型であった。被写体をひきとらえるのではなく単体でとらえる傾向にあるということがわかる。「まち自慢を探そう」というテーマで行ったが、直前に伊豆石・なまこ壁のレクチャーをしたこともあり、伊豆石なまこ壁の建物が撮影されたものは全体の54.5%であった。子どもたちにとって、それらが自慢だという意識をもつきっかけとなったこともわかった。伊豆石なまこ壁を撮影したもののなかで75.9%が注目型であったため、注目型が多いのはそれも要因のひとつと考えられる。

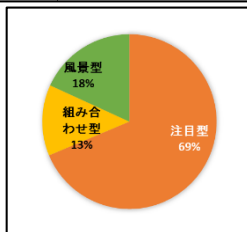


図2 写真分類の割合

### 5-3 事後アンケート

事後アンケートでは、WSの感想と、事前アンケートと同じまちへの意識調査を行った。WSは楽しかったかという質問には、とても楽しかったが35人(83.3%)楽しかったが7人(16.7%)で、つまらなかった・とてもつまらなかったは0人で、対象者が楽しんで取り組むことができたことがわかった。どのようなところが楽しかったかという自由記述の欄では、大学生との交流が26人(59.1%)と一番多く、東京から来たお兄さんお姉さんと一緒に自分のまちを歩くという体験そのものが楽しさにつながったことがわかった。坂下会所・旧澤村邸に初めて入れたことという意見も多く、今まで入る機会がなかったということもわかった。

## 6 分析

5章の結果を用いて分析を行う。図3に示す3つの質問項目はWSの事前と事後で同じ内容の質問をおこなったものである。WS前後で変化があると見込んでいたが、図の示す通りほぼ変化はなかった。2つのアンケートを取った時期が短すぎたことや、WSの内容や質問内容が対象者の年齢にあっていなかった

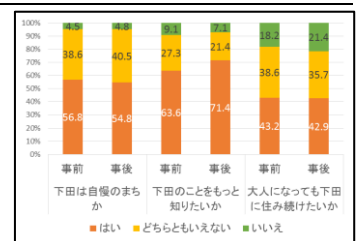


図3 3項目の事前事後の比較

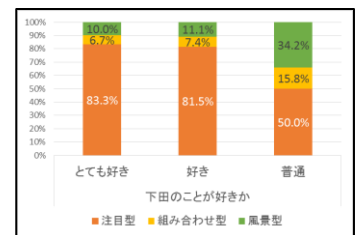


図4 下田が好きかと写真分類

ことなどが考えられる。次に、表3で示した写真の分類を活用し、まちへの意識と写真の撮り方にどのような関係があるのか分析を行った。下田が好きかという質問で比べると、各項目注目型が多いが、普通と回答した人の風景型を撮影した割合が高いという結果となった。普通と答えた人のほうが特別に好きなポイントがないため、全体を捉える傾向にあるのでは考えられる。

## 7 展望

アンケートによって子どもたちがまちへの意識が高いということはわかったが、事前事後のアンケートでは意識の変化がみられなかった。分析結果がどうしてそのように表れたのか、10月に行う保護者対象のアンケートのデータも参照しながら子どもがまちをどのように捉えているのかを今後追求していく。

### 【参考文献】

- 1) 竹原育美(2006)『子どもがまちづくりの担い手として育つための方策』pp537, 538 日本建築学会大会学術講演梗概集